響きわたる歌声 この町の未来へ

Photo／オープニングを飾った園児から大学生まで総勢204人の大合唱

教育のまちと学園都市構想を目指した「御船町教育フォーラム」が 11月 5 日、カルチャーセンターで開かれました。町教育委員会が主催して、今年で 4 回目。町内の園児から大学生までが一堂に会して、合同合唱や合奏で心を一つに融合しました。ここでは、児童生徒が参加したパネルディスカッションの「すてきなまち御船町」をお伝えして、古里のこれからを考えます。

ごみのポイ捨て罰金制度を提案

御船高２年　伊藤　寛行 さん

私は、ごみのポイ捨てに罰金を設けるべきだと思います。美しい自然を残すためには、身近なところからやっていかなければいけないからです。ごみが道端に捨てられ、放置されれば、自然に悪影響を及ぼします。罰金を取り入れることで、住民の意識も変わってくると思います。罰金制度は、シンガポールで国全体の国家法として法律に定められ、世界的にも取り上げられています。御船町は、緑豊かな町です。だからこそ、美しい自然を守ることに意識を高く持ち、未来に残す責任を持たなければならないと思います。

世界が変わるキャップ回収

御船中３年　石川　徹 さん

生徒会では、ペットボトルキャップ集めを呼びかけています。キャップ400個で約10円のワクチンができます。キャップは、ごみとして焼却すると二酸化炭素が発生しますが、ワクチンに変えことで、世界が変わるのです。この活動は、子どもから高齢者まで誰でも簡単に参加できます。小さなキャップから未来の地球環境や子どもの命を考えることにもつながります。生徒会の目標は 1 万個です。ボランティア精神が御船町全土に行きわたり、相手や環境のことを考えれば、住みやすくすてきな町になると思います。

小さなこと意識すてきな御船に

高木小６年　内田　凛 さん

高木小では、「ふるさとクリーン作戦」で、学校周辺のごみ拾いと分別を行っています。活動から、「捨てればごみ、分ければ資源」の意味が分かりました。ほかにも、エコキャップ運動をしています。キャップ800 個でワクチン一つ分になり、困っている人を助けることができます。家での取り組みは、お風呂の残り湯を洗濯に使ったり、家庭菜園で野菜を作っています。私は、小さなことから意識して、取り組みを続けることが大切だと思います。一人一人の力を合わせることで、もっとすてきな御船町にしていきたいです。

未来へと残したい大切な吉無田水源

七滝中央小６年　藤井　碧 さん

七滝中央小校区で有名なものは、吉無田水源から湧き出るおいしい水です。この水のおかげでおいしいお米や野菜がとれます。私たちの校区は江戸時代、水不足で困っていました。山に数百万本の木を植え、森林となり、水不足が解消されたそうです。水がでるまで何十年もかかり、昔の人々は未来の人たちへの思いで木を植えたと考えられ、ありがたいと思いました。植林をした人々に感謝の気持ちを持って、水を無駄にしないようにしていきたいです。未来に生きる人たちが安心して水を飲めるように。

自然を残す方法山へキノコ狩り

御船高２年　坂本　真洋 さん

今の美しい自然を残すために方法を考えました。それはごみ拾いです。御船町の山や竹林でキノコ狩り、タケノコ採りイベントを行うこと。場所に向かう時や着いてから、ごみを見かけたら拾っていきます。ごみ拾いだけが目的ではなく、山や竹林の自然にふれあうことで、自然の大切さを分かってもらいます。今の子どもたちは野菜の好き嫌いが激しいため、自分が採ったキノコやタケノコを食べることで、嫌いなものをなくしていく考えもあります。将来、子どもたちが大きくなっても自然の大切さを思い出します。

ごみ拾いのご縁人に伝え誇りを

御船中３年　増田　知美 さん

学校で５月に、御船川の清掃活動を行いました。思っていたよりもごみが多く驚きました。作業が終わった時、ごみは跡形も無く消えて、すがすがしい気持ちになりました。先日、学校である言葉を習いました。「ごみを一つ拾えば、ご縁を一つ拾う」というもの。つまり私は、清掃活動を通して、ご縁を拾っていたことを知りました。ごみを拾う、これだけで多くの人が幸せになります。これからも気づいたら、ごみを拾うようにしたいと思います。そして、清掃活動の意味を人に伝え、誰もが御船町に誇りを持つことができたらと思います。

人がやさしく緑あふれる町

小坂小６年　本田　明日香 さん

未来の御船町は、緑あふれる町であってほしいと思います。そのためにも公園ができて、春には花見、夏には虫取りと季節ごとに楽しむことができれば良いと思います。ボランティアで草取りや花の管理をし、子どもからお年寄りまでが交流しながら、一緒に町を守れたら良いです。活動をすることで、ボランティアに協力してくれる人が増えると、みんなが仲良くなれると思います。私たちにできることは、御船の自然を守ることです。ごみのリサイクル、ポイ捨てを無くし、人がやさしく緑あふれる町になればと思います。

豊かな自然を未来に残そう

木倉小６年　相崎　麗佳 さん

御船町の良さは、自然豊かなところ、人が優しいところです。自然を守るために木倉小でもいろいろな活動をしています。一つ目は「竹炭づくり」、二つ目は節水、節電、ごみの減量､リサイクルの「ＩＳＯ活動」、三つ目はアルミ缶や新聞の「資源物回収」です。今、この御船町に美しい自然が残っているのも、昔の方々が自然を大切に守ってきたから。今度は私たちが次の時代の人にたちへ、豊かな自然を残していく番です。自然を永遠に守るために、ささいなことでもできることから始め、みんなで協力していきましょう。

川遊びで感じた自然との関わり

滝尾小６年　西山　美沙妃 さん

滝尾小の自慢は、周りがたくさんの自然に囲まれていることです。夏休みは滝尾小の前の川に毎週のように行き、体を鍛えながら楽しみました。昔は子どもが毎日のように川で遊んでいたと聞いたけど、今は危ないからと自然の中では遊ばず、ゲームばかりになってきています。体を鍛えるためにも、川で流された時に助かるためにも、自然で遊んだ方が良いです。そんな自然が滝尾小にはたくさんあります。滝尾小の「たのしく、きたえて、おおらかに」という目標に取り組みつつ、滝尾の自然を大事にしていきます。

学校環境ＩＳＯ町も意識と行動

御船小６年　吉澤　千咲 さん

3月に起きた東北大震災、4月にできた御船小新校舎のことを考え、取り組んでいることがあります。学校環境ＩＳＯの取り組みです。自分たちにできることを目標にして、節電や節水を心がけています。学校だけでなく、町にもこういった取り組みが広がり、もっと環境について考えるべきだと思います。川は汚そうと思えば簡単です。しかし、元に戻すことはとても大変です。だから、汚してしまう前に、みんなで意識し、行動することで、未来の御船町に豊かな自然を残すことができるのではないでしょうか。

（注）パネラーの意見は要約して掲載しています。